

Docetaxel, Cisplatin, and 5-fluorouracil adjuvant chemotherapy following three-field lymph node dissection for stage II/III N1, 2 esophageal cancer

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2014-09-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 橋口, 忠典 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001772

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2321 号

Docetaxel, Cisplatin, and 5-fluorouracil adjuvant chemotherapy following three-field lymph node dissection for stage II/III N1, 2 esophageal cancer

(Stage II/III, N1,2 食道癌に対する 3 領域リンパ節郭清手術後の Docetaxel, CDDP, 5Fu (DCF) 補助化学療法の意義について)

橋口 忠典 (はしぐち ただすけ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、食道癌の術後補助化学療法の有用性を示唆した論文である。

食道癌は転移形式も様々であり、比較的早期の段階でリンパ節転移をきたす悪性度の高い癌である。現在では徹底した 3 領域リンパ節郭清手術を施行することにより、根治手術例の 5 年生存率は 50% を超える良好な成績を示しているものの、術後血行性転移やリンパ行性転移をきたす症例も多く、手術単独治療ではその根治性に限界があることも事実である。

そこで本研究では術後補助化学療法として DCF 療法の有効性とリンパ節転移陽性症例のうち術後補助化学療法の効果が期待できる subgroup はどのような症例であるかの 2 点を明らかにすることを目的とし、retrospective に解析を行った。

集学的治療が食道癌のさらなる治療成績の向上に不可欠であり、術後補助化学療法として DCF 療法は中等度リンパ節転移陽性例に有用であると考えられた。また、DCF 療法は悪性度の示標の一つであると考えられる壁内転移症例に対しての有用性も示唆された。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。